

Gauss の消去法

枢軸選択付き Gauss の消去法のアルゴリズム

【前進消去】

```

for k := 1 to n - 1 {
  |A[i, k]| (k ≤ i ≤ n) を最大にする i を探す
  b[i] と b[k] を交換
  for j := k to n { A[i, j] と A[k, j] を交換 }
  w := 1/A[k, k]
  for i := k + 1 to n {
    M[i, k] := A[i, k] × w
    for j := k + 1 to n {
      A[i, j] = A[i, j] - M[i, k] × A[k, j]
    }
    b[i] := b[i] - M[i, k] × b[k]
  }
}
    
```

【後退代入】

```

for i := n to 1 {
  x[i] := (b[i] - ∑j=i+1n A[i, j] × x[j])/A[i, i]
}
    
```

注意：実際には、 $M[i, k]$ は $A[i, k]$ に上書きするか（LU 分解）、あるいは単に変数 m として持ち保存しない。また後退代入時はわざわざ x をとらず b に書き込むのが通例（つまりこの手続きを呼び出すと、行列 A 、ベクトル b は破壊され、代わりに b に解が入る。）

LU 分解のアルゴリズム

```

for i := 1 to n { p[i] := i }
for k := 1 to n - 1 {
  |A[i, k]| (k ≤ i ≤ n) を最大にする i を探す
  p[i] と p[k] を交換
  for j := 1 to n { A[i, j] と A[k, j] を交換 }
  w := 1/A[k, k]
  for i := k + 1 to n {
    A[i, k] := A[i, k] × w
    for j := k + 1 to n {
      A[i, j] = A[i, j] - A[i, k] × A[k, j]
    }
  }
}
}
    
```

注意：行列 A と空のベクトル p を渡すと、 A に LU 分解形が上書きされ、 p に行交換情報が入る。

ベクトルと行列のノルム

線形空間 X の要素 x に実数 $\|x\|$ が対応し、次の4つの条件を満たすとき、 $\|x\|$ を「ノルム」と呼ぶ：
(i) $\|x\| \geq 0$, (ii) $\|ax\| = |a|\|x\|$ ($a \in \mathbb{C}$) , (iii) $\|x\| = 0 \Leftrightarrow x = 0$, (iv) $\|x + y\| \leq \|x\| + \|y\|$ ($y \in X$) .

以下、 $p \in \{1, 2, \dots, \infty\}$ とする .

ベクトルのノルム : $x \in \mathbb{R}^n$ に対して、 $\|x\|_p = (|x_1|^p + |x_2|^p + \dots + |x_n|^p)^{1/p}$.

行列のノルム : $A \in \mathbb{R}^{n \times n}$ に対して、 $\|A\|_p = \sup_{x \neq 0} \frac{\|Ax\|_p}{\|x\|_p}$.

このように定義された行列のノルムは、特に $p = 1, 2, \infty$ の場合に、以下の等式を満たす .

定理 1 $\|A\|_1 = \max_{1 \leq j \leq n} \sum_{i=1}^n |a_{ij}|$ (最大列和) , $\|A\|_\infty = \max_{1 \leq i \leq n} \sum_{j=1}^n |a_{ij}|$ (最大行和) ,

$\|A\|_2 = A$ の最大特異値 $= \sqrt{\rho(A^T A)}$ ($\rho(B)$ は行列 B のスペクトル半径) .

(証明) 略 . 講義で紹介した参考書を参照 . □

次の不等式はよく用いられる .

定理 2 $\|Ax\|_p \leq \|A\|_p \|x\|_p$, $\|AB\|_p \leq \|A\|_p \|B\|_p$ ($p = 1, 2, \dots, \infty$) .

(証明) 定義より、任意の x に対して

$$\|A\|_p = \sup_{x \neq 0} \frac{\|Ax\|_p}{\|x\|_p} \geq \frac{\|Ax\|_p}{\|x\|_p} .$$

1 番目の不等式はこれから明らか . 2 番目の不等式は、

$$\|AB\|_p = \sup_{x \neq 0} \frac{\|ABx\|_p}{\|x\|_p} \leq \|A\|_p \sup_{x \neq 0} \frac{\|Bx\|_p}{\|x\|_p}$$

から得られる . ただし、ここで1番目の不等式を使った . □